

科目名	教育学入門	科目分類	■ 専門科目群 □ 総合科目群		
			経済学科	□ 必修 ■ 選択	
			学科	□ 必修 □ 選択	
英文表記	Introduction to Pedagogy	開講年次	□ 1 年 ■ 2 年 □ 3 年 □ 4 年		
		開講期間	□ 前期 ■ 後期 □ 通年 □ 集中		
ふりがな	いちはら みつまさ	実務家教員担当科目		修得単位	2 単位
担当者名	市 原 光 匡	実施方法	■ 対面のみ □ 遠隔のみ □ 対面・遠隔併用		
授業のテーマ	教育学の基本的な知識と考え方を修得し、自ら考える力を習得することを目指す。				
到達目標	1. 教育の歴史と公教育制度の成立のあらましを理解し、説明ができること。 2. 近現代の教育をめぐる思想を理解し、それぞれの区別ができること。 3. 教育学の研究枠組みを理解し、説明ができること。				
授業概要	学問分野としての教育学を理解するにあたって、現代社会における教育の現状と課題を概観し、教育の役割を確認しながら教育学の研究方法に触れる。また、近現代の教育思想をふり返り、現代の教育を考える示唆を得る。				
授業計画					
第 1 回	ガイダンス				
第 2 回	教育とは・教育の目的とは				
第 3 回	教育問題を考える (1) いじめ				
第 4 回	教育問題を考える (2) 不登校				
第 5 回	教育問題を考える (3) 体罰と生徒指導				
第 6 回	教育問題を考える (4) 学力問題				
第 7 回	教育問題を考える (5) 家庭教育				
第 8 回	近代教育の思想の形成 (1) 西洋の近代教育思想 (教育史・教育哲学)				
第 9 回	近代教育の思想の形成 (2) 日本の近代教育思想 (教育史・教育哲学)				
第 10 回	近代教育思想の制度化 (1) 海外の教育制度史 (教育制度論)				
第 11 回	近代教育思想の制度化 (2) 日本の教育制度史 (教育制度論)				
第 12 回	近代教育の超克 (1) 新教育思想 (教育哲学・教育方法論)				
第 13 回	近代教育の超克 (2) 生涯教育論 (生涯学習論・社会教育学)				
第 14 回	現代の学習理論 (教育方法論)				
第 15 回	現代教育の問題とは (その他の研究領域)				
第 16 回	定期試験				
授業時間外の学習	現代の教育をめぐる問題に関心を向け、自分なりの考えを主張できるようにしておきたい (1.5 時間程度)。また復習として、授業で取りあげる教育学の研究分野ごとにその研究方法や研究の意義などをふまえておくこと (1.5 時間程度)。				
履修条件 受講のルール	特になし。				
テキスト	テキストは特に指定しない。なお、授業のレジュメ (要約) のファイルをポータルサイトにアップロードするので、事前にダウンロードしておくこと。				
参考文献・資料	必要に応じて授業中に適宜指示する。				

成績評価の方法	平常点 30%、定期試験 70%の比率で評価する。 平常点については、受講態度・話し合い等への参加状況を勘案する。 ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	火曜日 9:00～10:30・金曜日 13:00～14:30
成績評価基準	秀(100～90 点)、優(89～80 点)、良(79～70 点)、可(69～60 点)、不可(59 点以下)
実務経験及び 実務を活かした 授業内容	
学生への メッセージ	学生にははじめて耳にする語句や概念もあることと思われる。それらを理解することももちろん重要だが、それよりも教育学の研究分野やその研究方法・意義の理解に重点を置く。授業でも学生同士議論する機会を多く設けるので、積極的な参加を期待している。